

新基地建設反対名護共同センターニュース

「国の私人成りすまし」は許されない！



「国の関与認めたら地方自治の未来はない」
デニー知事 辺野古関与取り消し訴訟で

辺野古新基地をめぐる県の埋め立て承認撤回を取り消した国土交通省の採決を「違法な国の関与」として沖縄県が国を相手に起こした「国の関与」取り消し訴訟の第1回口頭弁論が18日、福岡高裁那覇支部で開かれました。玉城デニー知事が出廷し、「違法な国の関与に裁判所がお墨付きを与えることになれば、地方自治や法治国家に未来はない」と意見陳述しました。裁判は即日結審し、判決は10月23日に言い渡されることになりました。

裁判結果は全国の地方団体にも影響

口頭弁論後、デニー知事は県庁で記者会見し、「裁判の結果は、国と地方公共団体との関係、国と地方の係争処理のあり方が問われる。沖縄だけの問題ではなく、全国の地方公共団体にとっても大きな影響を与える」と話しました。

「デニー知事を支え、勝利まで頑張ろう！」 知事支援集会に県民200人が参加

口頭弁論を前に、「オール沖縄会議」が主催し裁判所前でデニー知事を支援する集会が開かれ200人の県民が参加しました。同会議共同代表の金城徹氏（にぬふあぶし共同代表）、照屋義実氏（照正組会長・県政策参与）などが「裁判の先頭に立つ知事を励まし、勝利まで頑張ろう」と挨拶。赤嶺政賢衆院議員や与党県議らも参加しました。

「一糸乱れず新基地建設の阻止を」

デニー知事は「県民のみなさんと一糸乱れず、新基地建設を止めさせて、持続可能な沖縄の姿を、子どもたちに示して行こう」と決意を表明しました。

最後に参加者一同で、つないだ手を高く上げ「勝利を信じて頑張ろう！」と三唱しました。



国政野党の「基地問題懇談会」が辺野古視察と防衛局交渉



↑グラスボートから視察する議員ら
→防衛局交渉の様子



「辺野古新基地阻止へ」現地野党共闘

国政野党の沖縄米軍等基地問題議員懇談会の議員一行が24日、辺野古の現地視察と沖縄防衛局との交渉をおこないました。いわば「辺野古新基地阻止へ」現地の野党共闘です。参加したのは赤嶺政賢（共産）、照屋寛徳（社民）、屋良朝博（国民）、近藤昭一（立憲）、山川百合子（同）の各衆議院議員、石橋みちひろ（立憲）、石垣のり子（同）、徳永エリ（国民）、伊波洋一（沖縄の風）、高良鉄美（同）の各参議院議員です。平和市民連絡会の北上田毅氏が説明役として同行しました。

議員らはグラスボートなどで大浦湾のK9護岸や弾薬庫横の崖崩れ現場、長島付近の軟弱地盤の位置を確認、K8護岸からの土砂の積み上げの現場を視察、その問題点の説明を受けました。

一行はこの後、ゲート前で座り込む県民の前で挨拶。各議員は「絶対に基地を造らせないために、一緒にがんばりましょう」と激励しました。

防衛局で「岩ズリ撤出は違法」など追及

午後、一行は沖縄防衛局を訪問し、大型ヘリが窓落下事故の究明ないまま飛行再開された問題や琉球セメント安和鉱山からの土砂（岩ズリ）違法撤出问题、移植サングの死滅問題などを追及しました。防衛局側は、どの問題についても不誠実な回答を繰り返すだけでした。